

令和5年度第1回亀山市地方創生会議議事概要

日 時：令和5年8月22日（火）午後2時～午後4時

場 所：亀山市役所 本庁舎 3階 大会議室

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 自己紹介
4. 会長及び副会長の選出
5. 議事
 - (1) 第2期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
亀山市の人口動態について（資料1～3）
（資料に基づき事務局より説明）

〔議事概要〕

委員

より良い保育、教育環境の提供に向け、明石市では、私立の認可保育施設に採用された保育士が長く働き続けることができる環境を整えるための補助を行っている。津市においても、同趣旨の補助がある。

こうした取組を行うことは、優秀な保育士の獲得・確保はもとより、よりよい保育・教育の提供に伴い、亀山市に住みたいと思う人の創出にも繋がり、将来的な人口の確保にも関わってくる。こうした視点も持って、取組を進めていってほしい。

委員

私の住んでいる地区は、人口は増えている印象である。団地があるところは増えているが、学校関係を見ると、少しずつ減少している印象である。

転出が多いという感じはあまりしない。周辺部では生活がし難い、不便であり、空き家の問題もある。亀山市では車がないと日々の生活はしづらい。

子どもの数は、川崎方面は増えていると思う。

会長

保育士への補助の例があったが、子育て支援のためのアイデアはあるか。

委員

ハンドメイドマルシェをやっている方は、元保育士が多い。結婚して出産を機に辞めて戻らないというパターンである。

保育士は、24時間仕事、家でも仕事をしないと仕事がまわらない。そのように仕事がいかに上にお金との関係があり、保育士に戻ろうということにはならない。

手先が器用なので、それを生かしてハンドメイドの仕事をしていたり、パートをしながら

という方が多い。

普段、町を歩く際も、親御さんとの関係も含めて気を遣う点がある等、保育士には戻りたくないという声を聴く。

会長

保育を担う方が楽しく仕事ができないのは問題であるし、所得の問題も何とかしないといけない。私立の場合、差もあると思う。

津市や明石市のような補助も考えられるが、別のかたちの支援も考えていく必要がある。保育を担う方の他にもエッセンシャルワーカーの数が減っている。仕事量の割に、給料が安いということもあり、若い人がそうした仕事に就かないということもある。

亀山市でどのような働き方がしたいのかを調べて、それにあった仕事、その給与や待遇についても考えていかないといけない。

委員

三重県下の会議所に人口減少に関するアンケートがちょうど来ている。人口減少への対策、外国人労働者の就労の関係もある。各進出企業を含め、従業員がいて仕事、会社が成り立つので、人口減少や、この先の教育の現場にも企業が目を向けて、地域貢献もしていかなければいけない。会社があっても働き手がいらない。保育士の方等がいてこそ、育休明け、産休明けに仕事に戻ってもらえる。会社としても辞めてほしくない。本人も戻りたいが、保育園が空いていないということもある。

仕事と保育園の場所の関係も重要であり、職場と逆方向のところにしか保育園の空きがないと、預けるのが難しくなる。そうしたバランスが取れないといけない。

会長

待機児童はどうか。

委員

「空いてるところへ」、と言われても通勤とのバランスがとれないこともある。

会長

市全体で見れば大丈夫でも、偏りがあるのではないか。

企業については、今は、売り手市場で、人が足りない。人に来てもらおうと思っても子どもを預ける場所、或いはそれに見合うだけの所得や待遇も、企業によってばらつきがあり、なかなか定着しない、もしくは人が集まらない。これは大きな課題である。

そうすると子どもをしっかりと預かってくれるインフラがある自治体の方が、当然企業としては安定して経営できるし、そうではない自治体では人も外に出ていってしまう。

働く企業と子育てを預かる保育は一体であるので、どちらかがうまくいなくても失敗してしまう。保育職に若い人がなりたくない、もう辞めたい、というのは市としても看過できないのではないか。

事務局

待機児童については、資料 1 の 8 ページの指標に記載があり、令和 4 年度で 19 人である。保育室の増設も行ったので、変化があると思われる。

会長

地理的なアンバランスもあるので、敢えて預けないという人は表に出てこない点もある。こうした点も課題であると思う。

人口が減るということは、働き手が減ることなので、厳しい点だと思う。

委員

工業団地の立地協定等もあり、経済界としてはよいが、働き手、労働してもらえる人口が不足していく。

会長

条件・環境が良いところに移っていく。

委員

この地域は製造業が多い。大学を出られた方もいるが、高校を卒業した方が製造系で勤めただけだとありがたいが、需給のバランスが取れていないのが現実である。

亀山高等学校からも短期大学や大学等へ行く方も増えており、求人を出しても、来ていただきたい分マッチングできているかというところでもない。鈴鹿高専だと、愛知等の専門のところに行ってしまう。

会長

定着が難しい。

委員

銀行であると、ある程度受けに来るが、辞退も非常に多い。業種的なものもあると思うが、三重県に帰ってくるのが少ないのかと思う。

以前、勤務の関係で熊野の方にいたが、亀山市は思っていたよりも、非常に住みよいところだと思った。亀山に来て 1 年経って、まちも住みやすい。鈴鹿・四日市に通勤される方も多いと思う中、鈴鹿・四日市は遠いと思っていたが、高速道路も便利であり、交通的なデメリットは感じなかった。

住宅についても、金融関係の視点で見ると増えている。北勢地区というところかというと、住むところとしては伸びていくのではないかと。住む場所としては、来てみたらポテンシャルはあると思った。

電車はないが、車があればどこへでも行ける。住宅の補助等もあると思うし、地価はそんなに高くないので、そういう観点から伸ばしていける余地はあると思う。津波の懸念も少ないし、住むところとしては良いと思う。

会長

もっとこうなればというところで、起業、新たなビジネスが起こるとよいと思っている。雇用されるという前提で若い人に入ってきて欲しいということもあるが、自分たちで、こういうビジネスをやってみたい、活動をやってみたいということができる環境があることが、選ばれる地域であると思う。創業支援も必要であるし、かめまるの活動もある種のビジネスの支援である。そういった支援・仕組が充実していると若い人たちが集まってくるのではないかな。

委員

大型商業施設が来たら良いのではないかな。

会長

総合戦略の期間に間に合うと良い。

そうしたインフラは大事であるし、住むとなると働く場所、教育、医療が大事になってくる。若者たちはそれらを総合的に判断して定住するということになる。

後は、若い人たちに関しては、ある程度自分たちのやりたいことができる環境があるか、もう1つは、既存の産業、これをDXやITと結びつけるような仕組みも必要であると思う。農業や林業も若い人の参入を促すのであれば、いわゆる、きつくて体力を使う仕事だけではなく、新しいことに繋がるということをPRしていくと、若い人にも興味を持ってもらえるのではないかな。会社に来なくても週2日か3日来ればよいというような。

委員

企業の方と話したところ、今、週3日ないしは2日のローテーションで出勤し、後はテレワーク、関連会社でこういった状況なので、本社に行けば場合によっては、1か月会社に来ないということもある。

例えば、リニア等も来れば、本社機能自体を移転というようなことも、そういった働き方を考えたら、現実的で夢の話でもない。期成同盟会でリニアの話も言っているが、積極的にこちらで、ということもできる。事務所に行くのが当たり前ではなくなっている。

会長

亀山市にとって、それはチャンスである。

先々にはそういった、都市同士の競争にもなってくる。

委員

こちらでもオンライン、テレワークも推奨された。回線も光になりストレスが無くなっている。この後も会社に行かず、家で仕事ができる。

会長

コロナ前、コロナ後で働き方、若者の働き方・思考も変わってきている。それに合わせてできることから進めていくことが必要であると思う。

資料1の4ページから亀山市の取組が書いてあり、様々な取組が進められている。

委員

不登校の親の会が立ち上がっていたり、フリースペースもあり、そこで子どもが自由に勉強したり、ゲームをしたりというスペースはできつつある。市全体の行政でやっているかというところではない。

会長

子ども達を直接支援することも大切だが、活動しているNPO等を支援し、そうしたネットワークを構築することも子育て支援では大切だと思う。

委員

40代、50代の元気な方々がいる。

会長

或いはそういった子育てを一旦終わった方々でそうした支援をしても良いという方もいらっしゃると思う。

また、委員がされているような、就業支援も必要であるし、稼ぎ手として地域に定着してもらいたいという思いもある。現在は、専業主婦でいたいという方も少ないと思うし、経済的に支えるためにも地域の力が必要である。

委員

子どもの数が減っていることを切実に感じるが、川崎小学校は年々増えている。井田川小学校は一旦増加し、少しずつ減っている。中心部は横ばいという感じであるが加太・関・野登・昼生といった周辺は減っていて、複式学級が増えてきていて、とても過疎化してきているのを実感している。

周辺の若い人たちが、井田川や川崎に住むという傾向もある。若い人たちは鈴鹿・四日市に近い団地に住もうという感じがある。

外から入って来る人は、川崎や井田川地区に住む方が多い。住んでいた人が戻ってきているのか、隣からくるのかはわからないが、若い人が全部出ていくわけではないので、亀山市に住んでいる子どもたちが、魅力的な亀山市の行事に参加して、いいところだと感じてもらうことも大切である。

関宿の夏祭りや花火大会、子どもが目をキラキラさせており、いいなと思う。

いろいろな事情もあると思うが、少々お金を取ることがあっても、質の良いものをみせていくのも良いかと思う。

亀山はいいところだとおっしゃっていただいて嬉しかった。亀山にあるおおらかな空気、

地域柄、ゆっくり子どもに関われる、学校数が多く、1つ1つの学校がゆっくりしているということを知りたい。良い面も多くあり、子ども達にいい思いをしてもらえる、いいものを見せられる、いい環境の中で大人になって、帰ってきてもらえるようにできるとよい。

川崎や井田川地区が住みやすいのであれば、住みやすい環境を整える優遇的なものがあるれば、周辺の過疎化はあっても、仕方ない面もあるのかと思う。

会長

子ども達が帰ってくる指標として、その地域にどれだけ愛着があるか、その地域が好きかという点は大きい。地域の祭りや交流イベントに子どもが入り、郷土愛を育んでもらわないとやがて出ていってしまう。小さいころから学校と地域が一体となって支える仕組みが必要である。

ここまでの内容をまとめると、1つは雇用の問題である。売り手市場で若者が定着しない中、亀山市で働こうというインセンティブが少ない。亀山市で働くことの意義、例えば農業にDXを絡める等、働き方改革の中で、週3日の勤務で働ける企業を支援する等、若い人たちが働きやすい職場環境を作っていくことが求められる。

次に、待機児童や地域的な保育の偏りという課題もある中で、どの地域・エリアでも質の高い保育サービスが受けられるよう支援をすることが必要である。

保育に関わるエッセンシャルワーカーへの支援、潜在的保育士が復職できるような支援、待遇、給料も含め、保育士が保育士として活躍できるような支援の在り方を見直すことによって、保育を担う人を亀山市に定着させることが必要である。

また、地域の方と子ども達、学校が連携して郷土愛を育むこと、この地域に住んでよかったと子どもたちが思えるようにすることで、20年、30年先に子どもたちが戻ってくるような教育の過程での郷土愛の醸成が大切である。

また、短期的には、川崎や井田川といった地区での、子育てをしやすい環境を整備するための支援が必要である。

(2) 企業版ふるさと納税の効果検証について(資料4)

(資料に基づき事務局より説明)

[議事概要]

会長

企業版の寄附があると様々なことができるが、今後PRしていくことは非常に重要であると思う。PR、広報は今後も継続していただきたい。制度は知られているのか。

委員

制度についてあまり知られていないような気がする。

事務局

令和4年度の寄附については、先方からの申し出である。

会長

PRする機会があればと思うが、如何か。

委員

周知することはできる。PRは可能である。

委員

イベントの協賛等はあるが、企業版ふるさと納税は、知らない方は知らないと思う。

会長

わかるように広報すればよいと思う。

(3) 第2期亀山市シティプロモーション戦略について(資料5)

(資料に基づき事務局より説明)

[議事概要]

会長

シティプロモーションについては、積極的に取り組んでいるが、20代、40代が減っており、人口動態を見ると、四日市、津市に転出し、鈴鹿市から転入しているという状況である。

また、移住件数の増加については、コロナの影響もあるかと思う。ホームページのビュー等では、コロナに入ってからホームページの更新件数も増えている。コロナ禍の中でPRもされ、その成果は一部出ているが、亀山市の情報接触度は落ちてきている。

行政としてはいろいろな取組を行っているが、情報発信が若い人にささるのか。ホームページやフェイスブックをやっている若い人は今、ほとんどいない。インスタグラム、後はライン、この辺りではないか。

委員

フェイスブックと連携してあるが、インスタグラムがメインで、ついでにフェイスブックも一緒に上がるという感じである。

フェイスブックは、もともと本名でしないといけない、知り合いと知り合いの繋がりを大事にするというものであり、イベントをするとなった時に、いろいろな人に発信をしないといけないので、そうなると知り合い同士、内々で情報共有をするフェイスブックでは違うと思う。

会長

イベントをやる際、行政を頼るか。

委員

頼る時もある。その時その時だが、夏休みということで、こういうことをしたいが、何かしたいことがあるか、その時に、ブースを作るとかいう話をさせていただく。

会長

一緒にシティプロモーションをしているのか。

事務局

情報発信できることがあれば、一緒に行うようなかたちである。

会長

常にそういうアンテナがあるのか。

事務局

情報はいろいろなところから取るようにしている。

会長

情報感度を良くしないといけない。行政の広報は、締切がかなり前で、発表する頃には古い情報になっていることもある。若い人にはその辺の感度は大切である。

委員

亀山が中心であるが、津でも活動している。津と亀山で、両市にアンテナを張っているが、最近津の情報が多し。新しいことが、亀山はあまり入ってこない。

花火も今までのものが復活した、関宿の祭りが復活した、今までであることがコロナ禍から戻ってきたというのはある。

津だと新しく海上アスレチックができた等があるが、亀山の新しい何かは最近あまり入ってこないかなと思う。

会長

ウチとソトで分けて、市民向けと外向けとに分けているが、ウチについては、プライベートメディアを使ったほうが良いかもしれない。インスタグラムでもラインでもウチの情報は早く広がる。

外向けはマスメディアを使わないといけない部分がある。メリハリをつけた方が良いのかなと思う。

委員

去年、ある東海三県のTV番組で三重県の情報が少ないという話だった。たまたまロケに遭遇してインタビューを受けた。スタッフと話したところ、三重県の情報が非常に少なく、亀山は1つも上がっていなかった。鈴鹿やいなべのお店や業者は出ていた。

委員

制作会社にすると、全部検索をかけ、そこでヒットしたら連絡を入れアポを取るというかたちである。情報量が少ない。

委員

亀山と津の情報を比べると津の方が多い。人口比からいくとそうだが、亀山もたくさんあるので、掘り起こせばある。取材してくださいと言われたら、ほぼ取材させていただく。売り込んでいけば、ニュースや特集など色々取り上げることはできる。

委員

私の場合も、すぐ来ていただいた。

会長

売り込みPRが足りないかもしれない。

委員

東京駅で三重県の大きな看板を見て、嬉しかった。亀山市内で亀山のいいところのポスターを見ても何も思わないが、東京で見ると違う。

東京に転勤したり、出身の学生が亀山の看板を見たりすると、将来戻ってこようかなということもあるかもしれない。東京や大阪、外部に情報を出すということは大切だと思った。

会長

外に出た人に亀山市の情報を発信する。

委員

遠いほど、感じるものはあると思う。

全国版のニュースに少し出るだけでも受け取り方は全然違うと思う。

会長

亀山のファンが出てくると広がっていく。コアなインフルエンサーに情報が行き、拡散し、それを受け取った人が更に拡散するというように変わってきている。

委員

CMはお金がかかるが、とりあげさせていただく場合はお金はかからない。

会長

県南部では、1時間番組を行政が買うというようなことも聞いている。

委員

そういったケースもあるし、ユーチューブはお金のかかる場合もあるが、取り上げてください、というかたちだとお金はかからない。

会長

市でユーチューブはもっているのか。

事務局

公式ユーチューブをもっている。

委員

新図書館も取り上げさせていただいていて、カッコ良い動画になっている。

会長

ユーチューブも幅広い年代層がみる。市のユーチューブを知らない人もいる。情報発信に関する専門家を庁内に置くという自治体も多い。

委員

観光協会からのユーチューブの依頼もあるが、イメージだけ言ってもらうかたちである。

会長

特命官として採用したり、メディアと連携したりしてやることもある。

移住・定住、プロモーションについて、情報接触度が下がっている。他所で見聞きする亀山の情報が減っている。これを増やしていく必要がある。魅力的なコンテンツはあるということであったので、これを拡げていくことが大切である。情報が無い先を移住先として選択することは難しい。情報発信が、移住にも繋がっていくのではないかな。

観光については、復活しつつあるということか。コロナからの回復ということか。

事務局

平成25年に式年遷宮があり、27年に伊勢志摩サミット開催決定がなされ、南勢に注目が集まる中、亀山サンシャインパークの実績もあるが、車による通過等も増え、平成27年度の入込客数が多いと推察している。令和2年が底で、回復していると考えている。

会長

県の観光客数は、式年遷宮を中心に上下するが、コロナで下がった令和2年を底として、戻ってきているという捉え方かと思う。

令和5年でももう少し上がってくる、観光としては戻ってきているというかたちであろうと思う。今後、万博等による人の誘客も1つ課題かと思う。

四日市・津への移動をどうみるか。鈴鹿からは入ってくるが、四日市・津へ出ていくことの分析検証が必要だと思う。

委員

四日市・津へ流れるというのは、そちらに魅力的なお店が多い。若い人が惹かれるのではないかな。センスが違う、おしゃれな雰囲気の家も多い。

亀山でそういう家を建てると目立ってしまう。お洒落な家、生活、センスが違っていると感ずる点もある。こちらが悪いということではなく、基本的な家の建て方が亀山では多い。

会長

同質化圧力が強いのかもしれない。

委員

親族が津に居るので思うのかもしれないが、センスがある。

委員

津に親族が住んでいるが、便利だからというのはある。居住先を選ぶのに、亀山市は選択肢からは外れていた。

委員

鈴鹿も選択肢にはなかった。

委員

津には、県の施設も多い。子育て世代も多い。

会長

まとめると、情報発信について、ウチとソトという点でいうと、ウチは、SNSを中心としてインスタグラム・ラインという若者達のツールを多用しながらインフルエンサーを中心とした広がり理想というように思う。

ソトについては、東京等の遠いところで亀山の情報を見ると亀山に対する愛着が増すという話があった。ターゲットエリアを広げていただいたので、首都圏・中京圏・関西圏の中での情報発信、PRを積極的に行っていただきたい。

近隣はZTVが担ってくれるところがあるので、産官の連携になると思うが、一緒にPRを進めていってほしいと思う。専門家の力も借りながらプロモーションしてほしい。

以上をまとめとして、協議事項は終了としたい。皆様から頂いたご意見等々を踏まえ、今後の戦略・計画の進捗を進めていただきたいと思う。